一人一人の子供の将来の豊かな生活につながる教育課程の編成はどうあればよいか

― 個々の教育的ニーズの把握と指導内容・方法の整備 ―

平成１２年１月

鹿児島大学教育学部附属養護学校

はじめに

校長　久留一郎

本校は，本年度，創立20周年という節目の年を迎えました。この間本校は一貫して，「家庭や地域社会と連携し，小・中・高の一貫した教育」「大学との連携による理論と実践の統合した研究」「教育実習校としての優れた人材の育成」を使命とし，そのときどきの時代の要請を踏まえた教育実践を進めてまいりました。特に，「新しい教育理論と教育実践に関する研究を先駆的に行い，県内外の諸学校及び関係機関，地域社会との交流を図り，障害のある児童生徒の教育の進展を図る」ということに関しては，大学との連携の下，多くの実証的研究成果を上げ，地域校の中で主導的役割を果たしてきたと自負しております。

一方，西暦2000年を迎え，社会全体が大きな転換期にある今日，教育の分野においても改革の波が押し寄せています。国立大学も例外ではなく，国家公務員の削減とともに独立行政法人化の動きが具体化しつつあり，教育学部そして附属学校においてもそのあり方が問われています。本校についても，その役割が十分に果たされているのかという社会の厳しい目が向けられていると言えましょう。このような時代的背景の中で，わたしたちは，これまでの実績におごることなく，未来に向けて自己改革を積極的に押し進めていく姿勢を堅持したいと考えます。

今回，本校では，「一人一人の子供の将来の豊かな生活につながる教育課程の編成はどうあればよいか　～個々の教育的ニーズの把握と指導内容・方法の整備～」という研究主題を掲げ，教育課程再編の研究に取り組むことにしました。

この研究は，これまでのわたしたちの教育観や指導観あるいは子供観といったものを再度整理し直すことをその出発点として，これまでの実践課題を厳しく問い直し，その解決策を探ることを大切にしました。こうした今回の取り組みは，新しい時代の要請に対応するための自己改革の大きなテーマであると考えております。また，文部省の平成11・12年度特殊教育研究協力校の指定を受けたことを一つのきっかけにして，研究協議会という新たな試みを設定し，その中で，県内外の先生方とこれからの障害児の教育のあり方を，共に探り考えていく立場を大切にしたいと考えました。大学との連携はもちろんのこと，地域校との連携協力の下，よりよい教育を共に創り出す際の主導的役割についても，その一翼を担っていきたいと考えております。

今回の研究は，緒についたばかりで不十分な状態にあります。本日の研究協議会を通して，あるいは本紀要を手にされた各地の先生方から，多くの御意見や御指導を賜り，来年度の研究の集大成につなげていきたいと考えております。忌憚のない御批評，御教示をよろしくお願いいたします。

最後になりましたが，今回の研究協議会に際し，中央講師の任を快くお引き受けくださいました帝京大学の大南英明先生をはじめ，御後援をいただいた鹿児島県教育委員会，鹿児島市教育委員会，さらには研究の推進にあたり絶えず懇切な御指導をいただいた諸先生方に深く感謝の意を表します。

平成12年１月28日

総　目　次

はじめに …… 校長　久留一郎

研究基調 …… 1

小学部研究 …… 21

中学部研究 …… 41

高等部研究 …… 61

おわりに …… 研究同人一同